福井大学リポジトリ
UNIVERSITY OF FUKUI REPOSITORY

学生の成長促す被災地ボランティア

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2012-05-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 寺岡, 英男 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10098/5295

学生の成長促す被災地ボランティア

理事(教育･学生担当)　寺岡　英男

本学学生の災害ボランティア活動は，大震災後の３月から，医学科１年生の個人参加や医学部教員に帯同しての医学科看護学科学生の参加（いずれも福井県災害ボランティアセンター連絡会（以下「連絡会」という）が行う陸前高田市）に始まって，以下の種類の活動が取り組まれてきた。

1　「連絡会」に登録し参加する活動
2　本学教員が帯同する活動
3　個人または学生同士の活動

４月１日には，鈴木文部科学副大臣名で，「東北地方太平洋沖地震発生に伴う学生のボランティア活動について」という通知が出された。通知は「学修成果等を活かしたボランティア活動を行うことは，将来の社会の担い手となる学生の円滑な社会への移行促進の観点から意義があるものであることから，被災地等でボランティア活動を希望する学生が，安心してボランティア活動に参加できるよう」指導等を求めるものだった。

通知の観点は本学としても重要な意義として考えていることでもあり，本学でも時期に合わせて３回に亘り，学長名で学生への「お願い」を出した。１つは４月13日のもので，被災地での規模の大きい余震等での安全上の配慮から，①「個人」での参加は見合わせてほしい，②災害復旧長期化が予想される中，今後参加要請があれば迅速かつ積極的に対応するので改めてお知らせする,③「連絡会」等での参加を考えている場合は，安全確保と状況把握をする必要上，事前に学内窓口に連絡・相談をというものだった。

次に大震災後２カ月を経過した５月11日に第２弾の「お願い」を出した。そこでは前期授業期間中の方針を示し，①受入れ体制が整いつつあるので，原則１週間以内に限り参加を認める，②保険の加入と事前届出と事後報告，そして事前説明会・講演会への参加，③修学上の配慮を行う，という内容だった。

第３弾は６月28日の「お願い」。夏季休業中の方針を示すもので,「連絡会」の派遣について，県内学生を対象に一定の学生派遣枠を確保し募集することを知らせた。この学生枠は，本学の災害ボランティア活動支援センターが,「連絡会」と交渉し設けられたもので，県の大学連携リーグ参加大学に呼びかけ，大学連携リーグの取組みとして実現した。８月９日からと23日からの各４日間,陸前高田市で行ったもので（バス代・保険料は県が負担)，本学から両日程とも，学生が参加するとともに，教員も帯同した。９日の出発式には福井大学と福井県立大学の学長も参加し，激励の挨拶を頂いた。

「連絡会」の活動紹介が中心となったが，医学科・看護学科の教員に帯同しての医学部学生のボランティア活動はずっと継続して行われているとともに，東北出身の工学部教員が呼びかけての工学部学生の参加等が取り組まれた。また関連しての講演会（被災地 NGO の吉椿氏，関西学院大学の野田正彰教授）や学生ボランティア活動参加者の報告会も開催された。

最後に,「ふくだいプレス」Vol.６でも紹介した阪神・淡路大震災のとき高２で仮設住宅に入り込み活動した大学生の手記を再び紹介したい。「神戸に行き，ボランティア活動を行ってきた。その中での体験が，今,「高齢社会論」の講義と重なり，なるほどと思うことが多い。…今振り返ると,『ボランティア』という言葉を使っていろいろな人と関わり，いろいろな社会の状態，社会現象を見てきたが，…自分は活動の中から知らず知らずのうちに勉強していたと言うことを実感した。自分の世界も広がった。だから『ボランティア』という言葉を使うのは相応しくないと思った。」と。このような経験と学びにつながるような場をともに作っていかなければならないと思う。